

家畜衛生情報

東部地域畜産経営技術推進指導協議会
6 8 1 号
富山県東部家畜保健衛生所

西部地域畜産経営技術推進指導協議会
富山県西部家畜保健衛生所

2026. 2. 10

令和 7 年度富山県畜産関係業績・
成果発表会が開催されました 1
高病原性鳥インフルエンザの発生状況... 2
寒冷期でも効かせる！消毒効果を
落とさないためのポイント..... 2
まだまだ寒い！冬から春にかけての
飼養管理のポイント(牛・豚) 3
マイコプラズマを防除するために..... 3

令和 7 年度富山県畜産関係業績・
成果発表会概要..... 4
簡易放牧の継続実施に向けて..... 5
飼料価格高騰経営安定緊急支援奨励金
交付のご案内(第 3 及び第 4 四半期分)... 5
防疫情報..... 6
韓国で口蹄疫・アフリカ豚熱が
発生しています..... 6
お知らせ..... 6

令和 7 年度富山県畜産関係業績・成果発表会が開催されました



発表会の様子

1 月 23 日、富山県民会館にて令和 7 年度富山県畜産関係業績・成果発表会が開催されました。この発表会は、畜産に関する事業推進、調査研究等における業績・成果について発表・討議を行い、本県の畜産経営の改善向上に資することを目的として毎年開催されています。

今年は家畜保健衛生所から 11 題、農業技術課広域普及指導センターから 1 題、農林水産総合技術センター畜産研究所から 3 題の演題が発表されました。発表内容は、家畜衛生に関する現場指導や病性鑑定の症例報告といったものから、畜産経営の改善指導、飼養管理の試験研究まで多岐にわたり、いずれも本県の畜産振興につながる発表でした。開催にあたっては、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究部門 人獣共通感染症研究領域 新興ウイルスグループの宮澤光太郎グループ長補佐を助言者としてお招きし、発表された各演題に貴重なご助言を頂きました。

なお、家畜保健衛生所の発表演題については、令和 8 年度に本県で開催予定の第 67 回東海・北陸ブロック家畜保健衛生業績発表会の選考会を兼ねており、東部家保の藤井主任、林獣医師、西部家保の小林主任が発表した 3 演題が選出されました。県を代表して素晴らしい発表を期待しています。(関連記事 4 ページ)

(東部家保環境課 宮本課長)

高病原性鳥インフルエンザの発生状況

今シーズンの高病原性鳥インフルエンザ (HPAI) は、1月30日現在で13道府県・18事例(採卵鶏13事例、肉用鶏4事例、うずら1事例)の発生が確認されており、約423万羽が殺処分の対象となっています。今シーズンも、全国の広い地域で農場におけるHPAI発生が相次いでおり、県内においても高い警戒が必要な状況です。

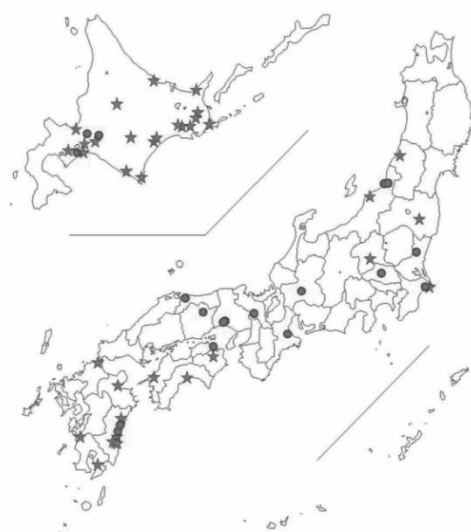
今シーズンの発生事例では、死亡鶏にチアノーゼなどHPAIに特徴的とされる症状が見られず、生存している鶏にも明らかな衰弱が確認されないケースが報告されています。日々の鶏の状態を最もよく理解しているのは、飼養者の皆さまです。異状を感じた場合には、ためらわず速やかに家畜保健衛生所へご連絡ください。早期通報・早期対応が被害拡大を防ぐ最も重要な手段です。

また、例年、1月が最もリスクの高い「トップシーズン」とされていますが、1月を過ぎてもウイルス侵入の可能性は続きます。引き続き農場内外の消毒、野生動物の侵入防止など、基本的なウイルス侵入防止対策の徹底をお願いします。皆さまの取組みで、地域全体の防疫力を高め、今シーズンを乗り切りましょう。

(東部家保健防疫課 古林獣医師)

令和7年シーズンの発生状況

● 家さん
★ 野鳥・環境試料



出典：農林水産省 HP

寒冷期でも効かせる！消毒効果を落とさないためのポイント

立春を過ぎましたが、富山県では寒さの厳しい日が続いています。この時期には、逆性石鹼(商品名：パコマ、アストップ等)の消毒効果の低下や踏み込み消毒槽の凍結に注意が必要となります。そこで、今回は寒冷期でも効果を発揮できる消毒のポイントを紹介します。病原体の侵入防止や農場内でのまん延防止のため、有効な消毒の実施を心掛けましょう。

【ポイント1 消毒液の凍結防止】

消毒液の凍結は、ヒーターでの加温のほか、畜産用不凍液(商品名：ビバフロスティ等)を混合することで防ぐことができます。

【ポイント2 消毒薬の濃度】

低温下では、逆性石鹼の消毒効果が著しく低下します。有効希釈濃度を守りつつ、100～200倍程度の高めの濃度で使用しましょう。

【ポイント3 消毒薬の効力増強】

近年、逆性石鹼の低温下や有機物存在下での効力低下という弱点を補う方法として、マイクロMIX法が注目されています。マイクロMIX法とは、逆性石鹼にマイクロ水酸化カルシウム(商品名：フィーネナチュラル、スーパーエコシェル等)を濃度0.17%以上(0.2%とすると計量が簡単です)となるように混合して使用する方法です。これらの相乗効果により、低温下や有機物存在下でも効力が増強され、十分な効果が期待できます。さらに、マイクロ水酸化カルシウムの強アルカリの作用により、エンベロープを持たないウイルス(ロタウイルス等)に対しても効果を示すようになります。

混合液の作り方：資材	秋から春 500 倍希釈	夏場 1000 倍希釈
逆性石鹼	40mL	20mL
マイクロ水酸化カルシウム	40g	40g
水	20 リットル	20 リットル

出典：畜産技術協会パンフレット(一部改変)

【ポイント4 消石灰の活用】

消石灰は凍結の恐れがなく、-25℃まで効果が確認されています。ただし、消石灰は液体と混ざることによって消毒効果を発揮するので、踏み込み消毒槽として使用する場合は、事前に長靴を濡らす、石灰乳にするなどの工夫が必要です。また、消石灰は強アルカリ性なので、塩素系消毒液(商品名：ビルコン等)と併用しないよう注意してください。

(東部家保健防疫課 林獣医師)

まだまだ寒い！冬から春にかけての飼養管理のポイント（牛・豚）

【牛】

富山県では2月になっても気温が上がりにくく、平均気温は約2～3℃と厳しい寒さが続きます。3月に入っても5～6℃とまだ低い日が予想され、牛にとっては寒冷ストレスを受けやすい時期が続きます。また、冬季の平均相対湿度は70～80%と高く、牛舎内も湿りやすい環境です。湿度が高いと被毛や敷料が乾きにくく、体表から熱が奪われやすくなるため、牛は実際の気温以上に寒さを感じやすくなります。成牛は被毛が乾いていれば0℃前後まで耐えられるとされますが、濡れや風が加わると体感温度が大きく低下します。一方、子牛は体温調節機能が未熟で、一般に10～15℃を下回ると体温維持のためのエネルギー消費が増えること



温かい敷料の上でゆったりと過ごす子牛

され、寒冷期には十分な栄養供給と保温が重要です。富山県の冬は低温と高湿度が重なるため、敷料を乾いた状態で厚めに保ち、冷気の侵入を防ぎつつ、最低限の換気を確保することが求められます。

日々の飼養管理の積み重ねが、冬季の損耗を防ぐ大きな土台となりますので、引き続き適切な管理をお願いします。（東部家保防疫課 槻尾係長）

【豚】

冬から春にかけての時期はまだまだ寒く、日中の気温差も大きいことから温度管理が非常に難しく、人も豚もストレスが多くなる季節です。特に子豚は寒さに弱く、暖房機器を使用するなど保温対策を万全にされていると思いますが、その一方で豚舎内は換気不足になりがちです。換気不足により、アンモニアガスが充填し呼吸器粘膜を傷害すると、呼吸器病の発生リスクが高まります。また、暖房機器（ガスブローダー）の使用による炭酸ガス（CO₂）濃度の上昇により発育へ悪影響を与える危険性も高まります。日中の天候や気温を確認しながら、温度湿度を急激に落とさない様にこまめに換気し、糞尿で汚れた敷料のこまめな交換を行い、飼養環境の改善をお願いします。環境の悪化は豚の行動が教えてくれます。子豚の状態を丁寧に観察し、保温、保湿、換気に十分に注意して、厳しい季節を乗り切ってください。（東部家保防疫課 先名係長）

マイコプラズマを防除するために

1月14日に富山県農業総合研修所で開催された畜産技術協会研修会において、酪農学園大学の樋口教授より牛のマイコプラズマ感染症についての講演がありましたので、その内容をご紹介します。

1. 一度入ると広がりやすく、被害の大きい病気

牛のマイコプラズマ感染症（主に *Mycoplasma bovis*）は、一度農場に侵入すると肺炎、関節炎、乳房炎などを引き起こし、治りにくく広がりやすいことから、経済的被害が大きい病気です。子牛では、呼吸が苦しく首を前に突き出す重度の肺炎、関節が腫れて歩けなくなる関節炎、耳だれを伴う中耳炎といった症状が典型的です。一方、成牛では急激な乳量低下を伴う乳房炎が問題となります。2008年頃に北海道でマイコプラズマ性乳房炎が流行しましたが、本病は地域性のある病気ではなく、全国どこでも発生する可能性があります。特に大規模農場では、導入牛からマイコプラズマが持ち込まれる機会が多く、発生リスクが高いと言われています。

2. なぜ治りにくく、広がりやすいのか

マイコプラズマは、牛の免疫の働きを巧みにすり抜ける性質を持っています。白血球や赤血球等に潜り込み、血流やリンパ流に乗って全身へ移動します。肺に慢性的な病変を作り、壊死した組織の中に潜むことで長期間体内に残り、治療しても完全に排除しにくい感染源となるケースもあります。感染後、数か月経ってから乳房炎として発症するケースもあります。

3. 農場でできる対策 —ストレス管理と衛生対策が基本—

感染の引き金として大きいのが、離乳、牛の移動、寒暖差といったストレスです。健康な牛の肺は本来マイコプラズマに強いものの、ストレスで免疫が低下すると感染が成立しやすくなります。対策としては、哺乳器具の徹底した洗浄・消毒、作業による病原体の持ち込みを防ぐ動線管理が重要です。

近年では、隠れた感染牛を見つける抗体検査（ELISA法）も利用可能となっており、PCR検査（遺伝子検査）と組み合わせることで、より効果的な早期発見と排除が可能です。マイコプラズマ対策は、「早く見つけ、広げない」ことが何より重要です。

（東部家保検査課 岩本係長）

令和7年度富山県畜産関係業績・成果発表会概要

令和7年度富山県畜産関係業績・成果発表会演題名は以下のとおりです。

I 家畜保健衛生所（○：第67回東海・北陸ブロック家畜保健衛生業績発表会選出演題）

番号	演題名	家保	発表者
1	見える化とPDCAを取り入れたHACCP認証農場の現場改善	東部	槻尾 里佳
②	牛サルモネラに対する防疫対応の再構築により清浄化を達成した一事例	東部	林 瑞稀
3	採卵牛の繁殖成績向上に向けた分析と考察	西部	米澤 史浩
4	黒毛和種繁殖農場におけるβ-カロテンに注目した繁殖成績改善に向けた取り組み	東部	柳 直人
5	管内簡易放牧の現状、牛伝染性疾病対応および有害雑草の防除について	東部	岡部 知恵
6	ウインドウレス鶏舎における鶏コクシジウム病調査と発症予防に向けた取り組み	西部	西村 加奈
7	新規めん羊牧場における消化管内寄生虫症の対策の検討	西部	竹元 正士
8	管内肉用牛農場で発生した <i>Fusobacterium necrophorum</i> により多臓器に病変形成を認めた一症例について	西部	長澤 健太
9	ホルスタイン種子牛における肝臓微小血管異形成による肝性脳症と診断した一症例	東部	山口 香菜
⑩	牛下痢ウイルス4種のマルチプレックスリアルタイムPCRの検討	東部	藤井 晃太郎
⑪	採卵鶏農場における <i>Gallibacterium anatis</i> の保菌状況および薬剤感受性調査	西部	小林 歩

II 農業技術課広域普及指導センター

1	飼料価格高騰化に対応した酪農経営 ～繁殖成績の改善こそが利益向上の鍵～	青柳 浩
---	-------------------------------------	------

III 農林水産総合技術センター畜産研究所

1	初生子豚の活力向上を目的とした妊娠期母豚へのL-カルニチン給与効果の検討	前坪 直人
2	泌乳牛への低タンパク混合飼料の給与が乳生産性および血液性状に及ぼす影響	沖村 朋子
3	飼料用米及び稲発酵粗飼料を活用した肥育方法の検討	山科 一樹

家畜保健衛生所の発表のうち、第67回東海・北陸ブロック家畜保健衛生業績発表会に選出された3題の概要は以下のとおりです。

<演題番号2>

令和4年7月に管内酪農家で死亡子牛から *Salmonella* *Infantis* が分離された。清浄化に取り組むにあたって、対応を標準化する「牛のサルモネラ症防疫対応の手引き」を策定。当初は陽性子牛等への薬剤感受性に基づく抗菌剤の投薬中心だったが、搾乳牛には投薬できず再分離が続き農家負担も大きかったため、令和5年7月から生菌剤の増量投与と消毒・動線管理等の環境整備へ重点を転換し、検査頻度も調整。併せて「牛のサルモネラ症防疫対応の手引き」を改訂しながら防疫対応の再構築を図った。農場側の追加対策も進み、発生から約3年後に連続3回陰性を確認して清浄化を達成。今後も同様な事例に対して「牛のサルモネラ症防疫対応の手引き」を活用して防疫対応にのぞみたい。

<演題番号10>

本県の牛下痢ウイルス検査は従来、複数遺伝子を同時検出するコンベンショナルPCRで実施してきたが、効率化のためマルチプレックスリアルタイムPCR（mrPCR）法を構築した。過去162件の解析で検出は牛コロナウイルス（24.7%）、A群ロタウイルス（16.7%）、牛トロウイルス（9.9%）、C群ロタウイルス（3.7%）が上位で、これら4種を1セット化。従来法陽性の55検体と比較したところ、新規法は従来法の検出結果を全て再現し、一部検体ではウイルス遺伝子の追加検出もみられ検査感度が上昇した。所要時間は248分→84分に短縮し電気泳動不要で汚染リスクも低下。費用は1検体418円→638円と増加したが、試薬購入の大ロット化で低減余地があり、迅速な情報共有と拡散防止指導に有用と考えられた。

<演題番号11>

Gallibacterium anatis (*G. anatis*) は鶏の上部気道・腸管・生殖器等に常在し、ストレスや混合感染で呼吸器感染症や敗血症等を引き起こす。県内3採卵鶏農場由来19株を分離し、16S rRNA 遺伝子解析で全株が *G. anatis* と同一クレードに属し全世界に広くみられる遺伝子型に近縁と判明した。薬剤感受性試験では全株が3剤以上の多剤耐性（最大8剤）を示し、エリスロマイシンとリンコマイシンは全株耐性。耐性遺伝子は *tet* (*B*) が高頻度で、他に *tet* (*A*)/*tet* (*H*)/*sul2* を一部で検出し、表現型と不一致な薬剤では未知の耐性遺伝子の可能性が示唆された。また16S/23S rRNA 遺伝子標的PCRは *G. anatis* を特異的に検出でき、細菌同定への有用性が示された。

（東部家保環境課 宮本課長）

簡易放牧の継続実施に向けて

富山県内の簡易放牧は平成14年に初めて実施され、その後県の支援事業の後押しもあり、平成23年には29カ所で111頭が放牧されました。令和7年度は7カ所で27頭が放牧されています。そのうち東部家保管内のある放牧地では、約2haの放棄田畑で例年6月から10月末まで牛2頭を放牧しています。長年の放牧の結果、牛が好きな草を食べ尽くしてワラビが生い茂るようになり、牛のワラビ中毒を引き起こすおそれがあるため、管理者は周辺住民と一緒に放牧前にワラビ狩りをしたり、放牧地全体を年2回刈り払うなど大変な労力をかけて対策しましたが、ワラビを減らせず困っていました。そこで令和7年12月11日に（一社）日本畜産草地種子協会から放牧アドバイザーの梨木守先生をお招きして「放牧実施者のための研修会」を開催し、有害雑草の防除について講義いただくと同時に、放牧地の現地視察をした上で対策検討会も実施しました。研修会では、以下のようなワラビ対策が示され、管理者はこれらを参考に今後の管理方針を検討しました。



現地視察の様子

- 1 刈り払い：ワラビが最大限に地上に茎葉を伸ばす時期（6月頃）の前後で年3回以上（例えば5・7・9月）刈り払う。
- 2 除草剤：放牧地で使える除草剤は農薬登録のある4種類。そのうちアシュラム液剤（商品名アージラン）は牛の餌となるイネ科の草には効きにくくワラビを選択的に枯らす。
- 3 放牧管理：富山の気候なら4月中旬から放牧が可能で、生え始めのワラビを牛が蹴散らすことで防除効果あり。また、日本の放牧地は放牧面積と放牧頭数のバランスを取れば、自然とシバ中心の植生に変わっていく。人為的にシバを増やすには、水はけが良く一日中日が当たる場所に1株/m²移植し、定着するまで周りを除草する。

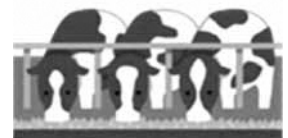
最盛期に比べると放牧地は少なくなりましたが、この放牧地では地域の一環として定着し、管理者からはクマ除け効果を感じているという声もあります。牛が安心して放牧され、ワラビ狩りを楽しみながらクマ除け効果にもなる、これからも本放牧地がずっとそのような場所であって欲しいと願います。

（東部家保環境課 岡部副主幹）

飼料価格高騰経営安定緊急支援奨励金交付のご案内（第3及び第4四半期分）

県では、飼料価格等の大幅な高騰の影響を受けている生産者の皆様の経営安定を支援するため、コスト低減等の取組みを行う方を対象に、配合飼料等（4に定義するもの。以下同じ）の購入量に応じた奨励金を交付します。（令和7年10月1日～令和8年2月28日に購入した飼料）

- 1 奨励金交付対象者：県内の農場で畜産業を営む方（地方公共団体を除く）で、奨励金交付申請書の別紙様式のコスト低減等の取組み※を3つ以上取り組まれている方。
（※取組みの内容については、1月中旬に郵送でお届けした申請関係書類をご参照ください。）
- 2 奨励金の額：配合飼料の購入量1トンあたり定額800円
（予算額：19,200千円、財源：重点支援地方創生臨時交付金、県の予算額を超過した場合は、交付申請額よりも低い額での交付）
- 3 対象期間：令和7年10月1日～令和8年2月28日
- 4 奨励金額算定の対象となる配合飼料等
 - ・配合飼料価格安定制度の対象となる配合飼料
 - ・米及び米由来の飼料を除く穀物由来の単体飼料又は混合飼料のうち穀物由来の飼料いずれも対象期間中に納入されたことが確認できるもの。
- 5 奨励金交付申請書の提出先：広域普及指導センター（郵送又は持参）〒939-8153 富山市吉岡1124-1
- 6 奨励金交付申請書の受付期間：令和8年2月18日（水）から令和8年3月4日（水）まで【必着】
- 7 お問い合わせ先：富山県農業技術課畜産振興係 TEL 076-444-3289



（農業技術課畜産振興係 早苗主任）

防 疫 情 報

全国の主な家畜伝染病の発生

高病原性鳥インフルエンザ（法定伝染病）

（1月30日現在）

事例	発生月日	発生場所	経営形態	飼養羽数	血清型
14	1月8日	兵庫県姫路市	採卵鶏	約15.5万羽	H5N1
15	1月10日	香川県東かがわ市	採卵鶏	約2.4万羽	H5N1
16	1月13日	三重県津市	採卵鶏	約2.5万羽	H5N1
17	1月22日	岐阜県関市	肉用鶏	約2万羽	H5N1
18	1月27日	千葉県旭市	うずら	約10.8万羽	H5N1

令和7年（2025年）シーズンの野鳥の鳥インフルエンザ発生状況（令和8年1月1日～1月30日）

事例	回収日	場所	種名等
65～78 14事例	12月28日 ～ 1月27日	北海道：札幌市、苫小牧市、伊達市、えりも町／ 千葉県：東庄町／愛媛県：大洲市／宮崎県：新富町／ 鹿児島県：出水市	マガモ、ノスリ、ハシブトガラス、 環境試料（水）

県内の主な家畜伝染性疾病の発生

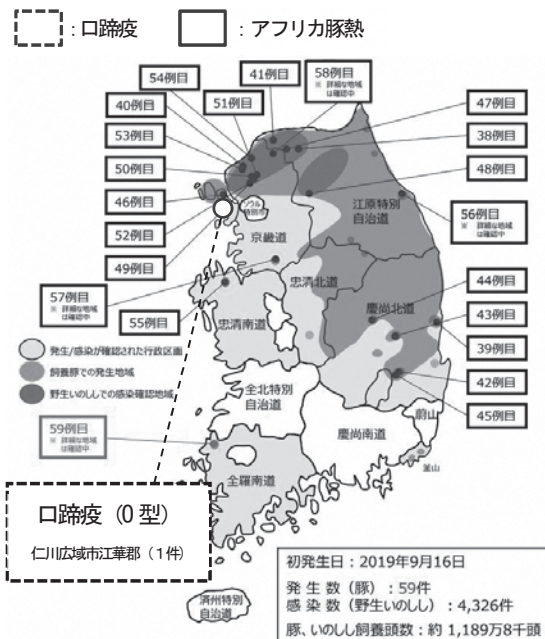
病 名	畜種	発生月日	戸数	頭羽数	備考
牛トロウイルス病	牛	1月27日	1	2	
豚丹毒（届出伝染病）	豚	1月8日	1	1	と畜場発見
		1月23日	1	1	

韓国で口蹄疫・アフリカ豚熱が発生しています

韓国で口蹄疫・アフリカ豚熱が再び流行の兆しを見せています。1月30日に口蹄疫（0型）が韓国北西部の仁川広域市の牛農場で発生しました。これは、昨年4月以来9か月ぶりの発生になります。また、アフリカ豚熱は1月16日～27日にかけて4例発生しており、直近の59例目は朝鮮半島南端の全羅南道で発生しています。日本に近い地域まで感染が拡大していることから注意が必要です。

今月17日の春節を控え、この時期は中国周辺のアジア諸国で大規模な人の移動が予想されています。中国政府の発表によると、春節前後の40日間で延べ95億人が移動すると見込まれています。日本にも海外からの旅客や物流が増加すると考えられますので、引き続き飼養衛生管理基準の遵守徹底により家畜伝染病の侵入防止を図ってください。また、飼養家畜の健康観察を入念に行い、万が一異状を発見した場合はただちに家畜保健衛生所まで連絡をお願いします。

（東部家保環境課 宮本課長）



韓国の口蹄疫とアフリカ豚熱の発生状況

出典：農林水産省 HP（一部改変）

☆ お 知 ら せ ☆

催 事 等	期 日	場 所
北陸三県和牛子牛市場	2月26日	北陸三県家畜市場（金沢市）
家畜衛生技術検討会	2月27日（東部）、3月3日（西部）	各家畜保健衛生所

発 行 所 富山県東部家畜保健衛生所 https://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1687/
〒939-3536 富山市水橋金尾新46 電話(076)479-1106 F A X (076)479-1140
編 集 者 宮本 剛志（富山県東部家畜保健衛生所）
○最新号は右のQRコードからいつでもご覧いただけます。

